

富山市民病院内科専攻医研修プログラム

目次

| | |
|---------------------------------------|----|
| 1. 理念・使命・特性 | 2 |
| 2. 募集専攻医数【整備基準 27】 | 4 |
| 3. 専門知識・専門技能とは | 5 |
| 4. 専門知識・専門技能の習得計画 | 5 |
| 5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】 | 8 |
| 6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】 | 9 |
| 7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】 | 9 |
| 8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】 | 9 |
| 9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】 | 10 |
| 10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】 | 11 |
| 11. 内科専攻医研修(モデル)【整備基準 16】 | 12 |
| 12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】 | 12 |
| 13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】 | 14 |
| 14. プログラムとしての指導者研修(FD)の計画【整備基準 18,43】 | 15 |
| 15. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)【整備基準 40】 | 15 |
| 16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】 | 16 |
| 17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】 | 17 |
| 18. 内科専門研修の休止・中断, プログラム移動, 等【整備基準 33】 | 17 |
| 19. 富山市民病院内科専門研修施設群 | 19 |
| ＊ 富山市民病院内科専攻医研修プログラム管理委員会 | 24 |
| ＊ 指導医一覧 | 25 |
| ＊ 各年次到達目標 | 26 |
| ＊ 週間スケジュール | 27 |

富山市民病院内科専攻医研修プログラム
富山市立富山市民病院

1.理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

- 1) 本プログラムは、富山県富山医療圏の中心的な急性期病院である富山市立富山市民病院を基幹施設として、富山・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て富山県～北陸の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として富山県全域を支える内科専門医の育成を行います。
- 2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年間＋連携施設1年間、特別連携施設は選択制）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度[研修カリキュラム](#)に定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 **Subspecialty** 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナルリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準 2】

- 1) 富山県富山医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

- 1) 本プログラムは、富山県富山医療圏の中心的な急性期病院である富山市立富山市民病院を基幹施設として、富山県富山医療圏、近隣医療圏および石川県にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設 2 年間+連携施設（特別連携施設）1 年間の 3 年間になります。
- 2) 富山市民病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 基幹施設である富山市立富山市民病院は、富山県富山医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- 4) 基幹施設である富山市立富山市民病院での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.26 別表 1「富山市民病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。専攻医 2 年修了時の研修達成度によって、Subspecialty 研修を行うことも可能です。
※Subspecialty 研修は、専攻医研修 3 年目に金沢大学附属病院で行うことが可能です。
- 5) 富山市民病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 3 年目の 1 年間、立場や地域における役割の異なる連携医療機関（金沢大学附属病院）で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。なお、研修達成度によって専門研修 3 年目に Subspecialty 研修を選択することもできます。
- 6) 基幹施設である富山市民病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で、「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。可能な限り、「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします（P.26 別表 1「富山市民病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたりますが、それぞれの場に応じて、

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- 2) 内科系救急医療の専門医
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

富山市民病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、富山県富山医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

2.募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により、富山市民病院内科専攻医研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は1学年3名とします。

- 1) 富山市民病院内科後期研修医は現在3学年併せて8名で1学年2～4名の実績があります。
- 2) 富山市管轄公立病院として雇用人員数に一定の制限があります。嘱託医としての採用数に制限はないものの、募集定員の大幅増は現実性に乏しいです。
- 3) 剖検体数は2013年度14体、2014年度11体です。

表. 富山市民病院診療科別診療実績

| 2014年実績 | 入院患者実数 (人/年) | 外来延患者数 (延人数/年) |
|-----------|-----------------|-------------------|
| 消化器内科 | 1,314 | 14,247 |
| 循環器内科 | 679 | 15,422 |
| 糖尿病・内分泌内科 | 200 | 13,748 |
| 腎臓内科・膠原病 | 374 | 10,281 |
| 呼吸器内科 | 971 | 10,560 |
| 神経内科 | 417 | 3,849 |
| 血液内科 | 126 | 5,281 |
| 救急科 | 622 | 4,297 |

- 4) 代謝，内分泌，血液，膠原病（リウマチ）領域の入院患者は少なめですが，外来患者診療を含め，1 学年 3 名に対し十分な症例を経験可能です。
- 5) 13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P.25「指導医一覧」および P.19「富山市民病院内科専門研修施設群」参照）。
- 6) 1 学年 3 名までの専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた 45 疾患群，120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です。
- 7) 専攻医 1～2 年目には，希望により特別連携施設で，一般開業医での総合的かかりつけ医診療や地域包括的診療も行う比較的小規模な病院での研修を選択することが可能です。
- 8) 専攻医 3 年目に研修する連携施設は，金沢大学附属病院であり，専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です（ここでは研修達成度により Subspecialty 研修を行うことも可能です）。
- 9) 専攻医 3 年修了時に「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた少なくとも 56 疾患群，160 症例以上の診療経験は達成可能です。

3.専門知識・専門技能とは

- 1) 専門知識【整備基準 4】 [「[内科研修カリキュラム項目表](#)」参照]
 専門知識の範囲（分野）は，「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病および類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」で構成されます。
[「内科研修カリキュラム項目表」](#)に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」，「病態生理」，「身体診察」，「専門的検査」，「治療」，「疾患」などを目標（到達レベル）とします。
- 2) 専門技能【整備基準 5】 [「[技術・技能評価手帳](#)」参照]
 内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4.専門知識・専門技能の習得計画

- 1) 到達目標【整備基準 8～10】（P. 26 別表 1「富山市民病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）
 主担当医として「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○専門研修（専攻医）1 年:

- ・症例：「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，60 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録

します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。

- ・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) に登録します。
- ・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医とともに行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修（専攻医）2年:

- ・症例：「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、120 症例以上の経験をし、日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) にその研修内容を登録します。
- ・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) への登録を終了します。
- ・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）3年:

- ・症例：主担当医として「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験をすることを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) にその研修内容を登録します。
- ・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。
- ・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます。査読者の評価を受け、形式的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。
- ・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします。日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

富山市民病院内科施設群専門研修では、「[研修カリキュラム項目表](#)」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間（基幹施設・特別連携施設 2年間＋連携施設 1年間）としますが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を1年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に **Subspecialty** 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます（上述のように、専攻医3年目を **Subspecialty** 研修に当てることが可能です）。

2) 臨床現場での学習【整備基準 13】内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかつた症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくは **Subspecialty** の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- ② 定期的（毎週1回）に開催する各診療科および内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
- ③ 総合内科外来（初診を含む）と **Subspecialty** 診療科外来（初診を含む）を少なくとも週1回、1年以上担当医として経験を積みます。
- ④ 救急センターの外来で内科領域の救急診療の経験を積みます。
- ⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます。
- ⑥ 要に応じて、**Subspecialty** 診療科検査を担当します。
- ⑦ 専攻医1～2年目には、希望により特別連携施設で、一般開業医での総合的かかりつけ医診療や地域包括的診療も行う比較的小規模な病院での研修も選択することが可能です。

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1) 内科領域の救急対応、2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4) 医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。

- ① 定期的（毎週1回程度）に開催する各診療科での抄読会
- ② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2014年度実績 9回）
※ 内科専攻医は年に2回以上受講します。
- ③ CPC（原則、1年に10回）
- ④ 研修施設群合同カンファレンス（2017年度：年1回開催予定）
- ⑤ 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：開放病床症例検討会、救急事例検討会、循環器研究

会，富山市呼吸器疾患研究会，消化器疾患懇話会，富山肝臓セミナー，ほか；2014 年度実績 25 回)

⑥ JMECC 受講（基幹施設：2016 年は 9 月に開催）

※ 内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。

⑦ 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）

⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会

など

4) 自己学習【整備基準 15】

「[研修カリキュラム項目表](#)」では，知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類，技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに，症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した），B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています。（「[研修カリキュラム項目表](#)」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します。

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信

② 日本内科学会雑誌にある MCQ

③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

5) 研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録します。

- ・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- ・専攻医による逆評価を入力して記録します。
- ・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。
- ・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
- ・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】

富山市民病院内科専門研修施設群でのカンファレンスとしては，内科合同カンファレンス（毎週火曜），内科 CPC（毎月第 2 火曜），地域連携開放型病床症例検討会（毎月第 2

火曜), 救急事例検討会(年4回), キャンサーボード(毎月第1月曜)等のほか、各専門グループごとに症例検討会, 抄読会等を行っている。例えば消化器グループでは, 朝カンファレンス, 外科とのカンファレンス(毎週水曜), 外科・放射線科・病理科との消化器合同カンファレンス(毎月第2水曜), 富山県立中央病院との合同カンファレンス等が行われる。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては, 基幹施設である富山市民病院臨床研修センターが把握し, 定期的に e-mail などで専攻医に周知し, 出席を促します。

6.リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず, これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

富山市民病院内科専門研修施設群は基幹施設, 連携施設, 特別連携施設のいずれにおいても,

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
- ② 科学的な根拠に基づいた診断, 治療を行う (EBM ; evidence-based medicine) 。
- ③ 最新の知識, 技能を常にアップデートする (生涯学習) 。
- ④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
- ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。併せて,

- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
 - ② 後輩専攻医の指導を行う。
 - ③ メディカルスタッフを尊重し, 指導を行う。
- を通じて, 内科専攻医としての教育活動を行います。

7.学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

富山市民病院内科専門研修施設群は基幹病院, 連携病院, 特別連携病院のいずれにおいても,

- ① 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します (必須) 。
- ※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会, 年次講演会, CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。
- ② 経験症例についての文献検索を行い, 症例報告を行います。
- ③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
- ④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

を通じて, 科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者2件以上行います。

なお, 専攻医が, 社会人大学院などを希望する場合でも, 富山市民病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8.コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

富山市民病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である富山市民病院臨床研修センターが把握し、定期的に E-mail など専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

- ① 患者とのコミュニケーション能力
- ② 患者中心の医療の実践
- ③ 患者から学ぶ姿勢
- ④ 自己省察の姿勢
- ⑤ 医の倫理への配慮
- ⑥ 医療安全への配慮
- ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
- ⑧ 地域医療保健活動への参画
- ⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- ⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけでなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9.地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。富山市民病院内科専門研修施設群研修施設は富山県富山医療圏、近隣医療圏の医療機関(金沢大学附属病院)から構成されています。

富山市民病院は、富山県富山医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモディジーの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。また、平成 28 年度には「富山市民病院救急総合診療センター」を設置し、総合診療・救急医療を重点とした全人的医療を学ぶことができます。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である金沢大学附属病院および地域密着型病院・診療所である富山逋信病院・おぎの内科医院と連携します。

専攻医 3 年目に研修する高次機能・専門病院（金沢大学附属病院）では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療を体験し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。ここでは、専攻医 2 年目までの研修達成度により **Subspecialty** 研修を行うことも可能です。

一方、富山市立富山市民病院は、富山市内で最も早く地域医療支援病院に指定されたことが示すように、古くから地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などにも力を入れており、地域医療密着型病院との関係も深く、これらの施設の見学・研修を通じて地域完結型医療についても十分に学ぶことができます。

専攻医 1～2 年目に選択可能な地域医療密着型病院・医院での研修では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、かかりつけ医診療、在宅医療などを中心とした診療経験を学ぶことができます。さらに、平成 29 年度には強化型在宅医療支援診療所である「富山市まちなか診療所」との連携が開始され、在宅医療・地域医療をより幅広く学ぶこととなります。

富山市民病院内科専門研修施設群(P.19)は、富山県富山医療圏、近隣医療圏の医療機関から構成しています。金沢大学附属病院は、富山市民病院から電車・バスを利用して、1 時間 30 分以内の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低いです。地域医療密着型病院・医院である特別連携施設（富山逋信病院・おぎの内科医院）での研修は、富山市民病院のプログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導の責任を行います。富山市民病院の担当指導医が、他病院・医院の指導医（総合内科専門医）とともに、専攻医の研修指導にあたり、指導の質を保ちます。

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】

富山市民病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

富山市民病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

専攻医 1～2 年目に選択可能な地域医療密着型病院・医院（特別連携施設）での研修では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、かかりつけ医診療、在宅医療などを中心とした診療経験を学ぶことができます。さらに、平成 29 年度には強化型在宅医療支援診療所である「富山市まちなか診療所」との連携が開始され、在宅医療・地域医療をより幅広く学ぶこととなります。

11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

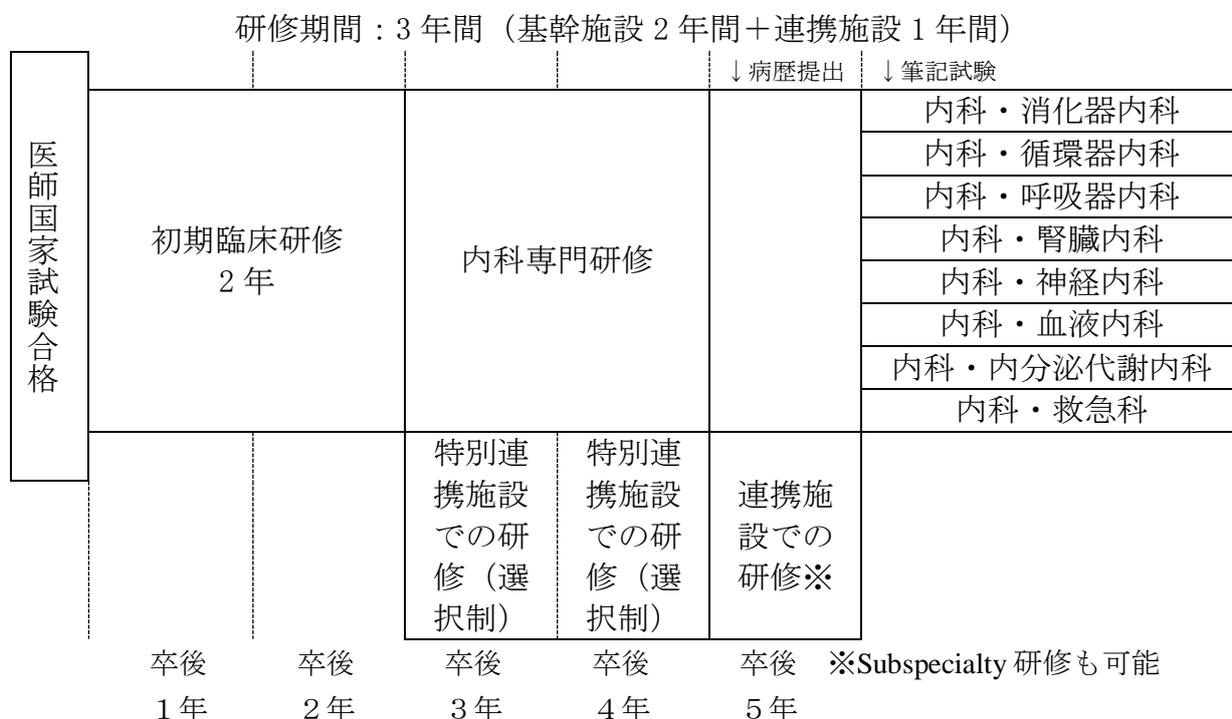


図 1. 富山市民病院内科専攻医研修プログラム（概念図）

基幹施設である富山市民病院内科で、専門研修（専攻医）1年目、2年目に2年間の専門研修を行います。この2年間では、希望により地域医療密着型病院・医院である特別連携施設での研修が選択可能（1～4週単位）であり、地域に根ざした医療，地域包括ケア，かかりつけ医診療，在宅医療などを中心とした診療経験を学ぶことができます。

専門研修（専攻医）3年目の研修施設は金沢大学附属病院となります。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3年目の1年間，金沢大学およびその連携施設，特別連携施設で研修をします（図 1）。なお，研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個人により異なります）。

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】

(1) 富山市民病院臨床研修センターの役割

- ・富山市民病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います。
- ・富山市民病院内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- ・3か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による J-OSLER への記入を促します。また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当

疾患の診療経験を促します。

- ・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリ内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- ・年に複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され、1か月以内に担当指導医によって専攻医に形式的にフィードバックを行って、改善を促します。
- ・富山市民病院臨床研修センターは、メディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）行います。担当指導医、Subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員5人を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、臨床研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して5名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され、担当指導医から形式的にフィードバックを行います。
- ・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

- ・専攻医1人に1人の担当指導医（メンター）が富山市民病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- ・専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- ・専攻医は、1年目専門研修終了時に[研修カリキュラム](#)に定める70疾患群のうち20疾患群、60症例以上の経験と登録を行うようにします。2年目専門研修終了時に70疾患群のうち45疾患群、120症例以上の経験と登録を行うようにします。3年目専門研修終了時には70疾患群のうち56疾患群、160症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
- ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリ内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- ・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- ・専攻医は、専門研修（専攻医）2年修了時までには29症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。担当指導医は専攻医が合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科

専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）3年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

(3) 評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに富山市民病院内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

1) 担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し、以下 i)～vi)の修了を確認します。

i) 主担当医として「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済み（P.26 別表 1「富山市民病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv) JMECC 受講

v) プログラムで定める講習会受講 vi) 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性

2) 富山市民内科専攻医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に富山市民病院内科専攻医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、 「指導医による指導とフィードバックの記録」 および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います。なお、「富山市民病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「富山市民病院内科専攻医研修指導者マニュアル」【整備基準 45】は別に示します。

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】

(P.24「富山市民病院内科専攻医研修プログラム管理委員会」参照)

1) 富山市民病院内科専攻医研修プログラムの管理運営体制の基準

i) 内科専攻医研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専攻医研修プログラム管理委員会は、統括責任者

(副院長)，プログラム管理者(診療部長)(ともに総合内科専門医または認定内科医かつ指導医)，事務局代表者，内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者(診療科部長)および連携施設担当委員で構成されます。また，オブザーバーとして専攻医が委員会会議の一部に参加します(P. 24 「富山市民病院内科専攻医研修プログラム管理委員会」参照)。富山市民病院内科専攻医研修プログラム管理委員会の事務局を，富山市民病院臨床研修センターにおきます。

- ii) 富山市民病院内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長1名(指導医)は，基幹施設との連携のもと，活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，毎年6月と12月に開催する富山市民病院内科専攻医研修プログラム管理委員会の委員として出席します。

基幹施設，連携施設ともに，毎年4月30日までに，富山市民病院内科専攻医研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います。

- ① 前年度の診療実績
 - a) 病院病床数，b)内科病床数，c)内科診療科数，d)1か月あたり内科外来患者数，e)1か月あたり内科入院患者数，f)剖検数
- ② 専門研修指導医数および専攻医数
 - a)前年度の専攻医の指導実績，b)今年度の指導医数/総合内科専門医数，c)今年度の専攻医数，d)次年度の専攻医受け入れ可能人数。
- ③ 前年度の学術活動
 - a) 学会発表，b)論文発表
- ④ 施設状況
 - a) 施設区分，b)指導可能領域，c)内科カンファレンス，d)他科との合同カンファレンス，e)抄読会，f)机，g)図書館，h)文献検索システム，i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j)JMECC の開催。
- ⑤ Subspecialty 領域の専門医数
日本消化器病学会消化器専門医数，日本循環器学会循環器専門医数，日本内分泌学会専門医数，日本糖尿病学会専門医数，日本腎臓病学会専門医数，日本呼吸器学会呼吸器専門医数，日本血液学会血液専門医数，日本神経学会神経内科専門医数，日本アレルギー学会専門医(内科)数，日本リウマチ学会専門医数，日本感染症学会専門医数，日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修(FD)の計画【整備基準 18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」(仮称)を活用します。厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修(FD)の実施記録として，日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用います。

15. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

専門研修（専攻医）1年目、2年目は基幹施設である富山市民病院の就業環境に、専門研修（専攻医）3年目は連携施設もしくは特別連携施設の就業環境に基づき、就業します（P.19「富山市民病院内科専門研修施設群」参照）。

基幹施設である富山市民病院の整備状況：

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・富山市常勤嘱託医師として勤務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署として、院内に衛生委員会・安全委員会が、また、富山市役所職員課にも職員用に「こころの健康相談」・セクシュアルハラスメントの相談」の各窓口があります。
- ・あらゆるハラスメントの相談窓口として機能する「アドボカシー室」が院内に整備されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P.19「富山市民病院内科専門施設群」を参照。また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は富山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

- 1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、富山市民病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立っています。
- 2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス 専門研修施設の内科専門研修委員会、富山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、富山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。
 - ① 即時改善を要する事項
 - ② 年度内に改善を要する事項
 - ③ 数年をかけて改善を要する事項
 - ④ 内科領域全体で改善を要する事項
 - ⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- ・担当指導医、施設の内科研修委員会、富山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会、およ

び日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、富山市民病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して富山市民病院内科専門研修プログラムを評価します。

- ・担当指導医，各施設の内科研修委員会，富山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます。状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます。

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

富山市民病院臨床研修センターと富山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会は，富山市民病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に，必要に応じて富山市民病院内科専門研修プログラムの改良を行います。

富山市民病院内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，毎年7月から website での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は，11月30日までに富山市民病院臨床研修センターの website の富山市民病院医師募集要項（富山市民病院内科専攻医研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します。書類選考および面接を行い，翌年1月の富山市民病院内科専攻医研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します。

(問い合わせ先) 富山市民病院臨床研修センター

E-mail: iida.yasuhiro@tch.toyama.toyama.jp

HP: <http://www.tch.toyama.toyama.jp>

富山市民病院内科専攻医研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて登録を行います。

18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて富山市民病院内科専攻医研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します。これに基づき，富山市民病院内科専攻医研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます。他

の内科専門研修プログラムから富山市民病院内科専攻医研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から富山市民病院内科専攻医研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに富山市民病院内科専攻医研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります．

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たしており，かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって，研修実績に加算します．留学期間は，原則として研修期間として認めません．

富山市民病院内科専門研修施設群

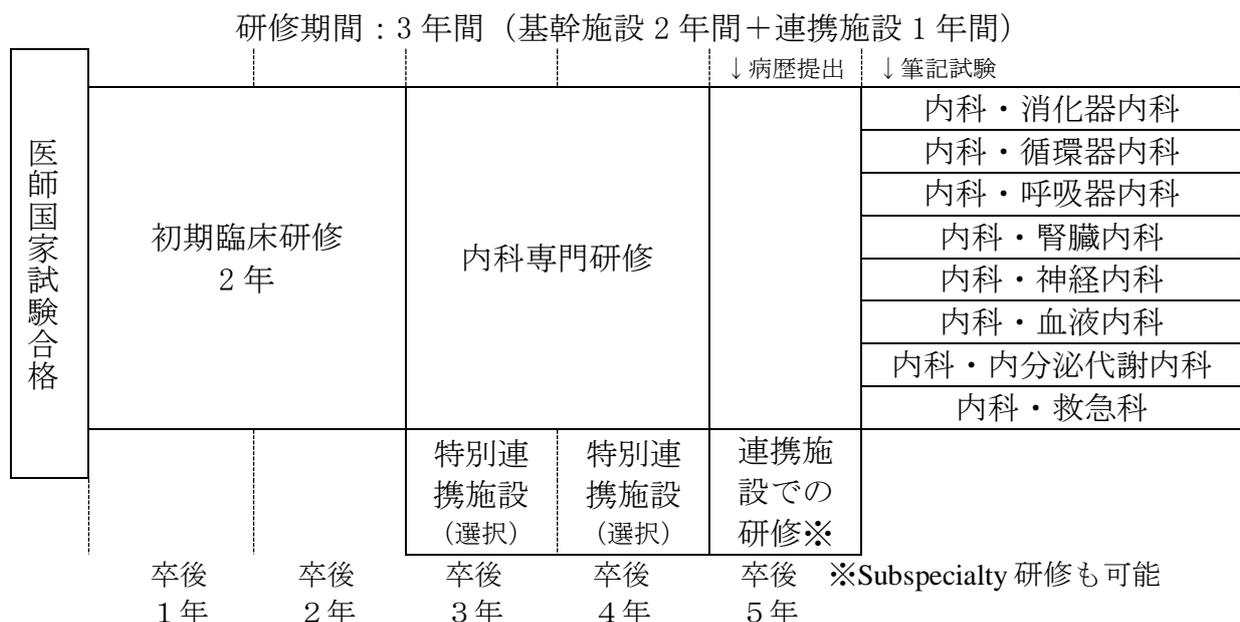


図1. 富山市民病院内科専攻医研修プログラム（概念図）

| | 病院 | 病床数 | 内科系 病床数 | 内科系 診療科 数 | 内科指 導医数 | 総合内 科専門 医数 | 内科剖 検数 |
|--------|----------|-----|------------|-----------------|------------|------------------|-----------|
| 基幹施設 | 富山市民病院 | 595 | 229 | 9 | 15 | 11 | 14 |
| 連携施設 | 金沢大学附属病院 | 838 | 223 | 9 | 83 | 66 | 30 |
| 特別連携施設 | 富山逋信病院 | 50 | 50 | 5 | 6 | 4 | |
| 特別連携施設 | おぎの内科医院 | | | 1 | 1 | 1 | |

表1. 富山市民病院内科専門研修施設群研修施設

| 病院 | 総合 内科 | 消化 器 | 循環 器 | 内分 泌 | 代謝 | 腎臓 | 呼吸 器 | 血液 | 神経 | アレ ルギ ー | 膠原 病 | 感染 症 | 救急 |
|----------|----------|---------|---------|---------|----|----|---------|----|----|---------------|---------|---------|----|
| 富山市民病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 金沢大学附属病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

○：研修できる △：時に経験できる ×：経験できない

表2. 各内科専門研修施設の内科13領域の研修の可能性

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。富山市民病院内科専門研修施設群研修施設は富山県および金沢市内の医療機関(金沢大学附属病院)から構成されています。

富山市民病院は、富山県富山医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジェーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。また、平成 28 年度には「富山市民病院救急総合診療センター」を設置し、総合診療・救急医療を重点とした全人的医療を学ぶことができます。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である金沢大学附属病院および地域密着型病院・診療所である富山逡信病院・おぎの内科医院と連携します。

専攻医 3 年目に研修する高次機能・専門病院（金沢大学附属病院）では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。ここでは専攻医 2 年目までの研修達成度により Subspecialty 研修を行うことも可能です。

一方、当院が富山市内で最も早く地域医療支援病院に指定されたことが示すように、古くから地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などにも力を入れており、地域医療密着型病院との関係も深く、これらの施設の見学・研修を通じて地域完結型医療についても十分に学ぶことができます。

専攻医 1～2 年目に選択可能な地域医療密着型病院・医院（特別連携施設）での研修では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、かかりつけ医診療、在宅医療などを中心とした診療経験を学びます。さらに、平成 29 年度には強化型在宅医療支援診療所である「富山市まちなか診療所」との連携が開始され、在宅医療・地域医療をより幅広く学ぶこととなります。

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- ・ 基幹施設である富山市民病院内科で、専門研修（専攻医）1年目、2年目に2年間の専門研修を行います。この2年間では、希望により地域医療密着型病院・医院である特別連携施設での研修が選択可能（1～4週単位）であり、地域に根ざした医療、地域包括ケア、かかりつけ医診療、在宅医療などを中心とした診療経験を学ぶことができます。
- ・ 専門研修（専攻医）3年目の研修施設は金沢大学附属病院となります。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3年目の1年間、金沢大学およびその連携施設、特別連携施設で研修をします（図1）。なお、専門研修（専攻医）3年目の希望者は、研修達成度によって、研修委員会の承認により Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

富山県富山医療圏と近隣医療圏にある施設から構成しています。最も距離が離れている金沢大学附属病院は、富山市民病院から電車・バスを利用して、1時間30分以内の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低いです。

1) 専門研修基幹施設

富山市立富山市民病院

| | |
|---|---|
| <p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・富山市常勤嘱託医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署として、院内に衛生委員会・安全委員会が、また、富山市役所職員課にも職員用に「こころの健康相談」・セクシュアルハラスメントの相談」の各窓口があります。あらゆるハラスメントの相談窓口として機能する「アドボカシー室」が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| <p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 12 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医または認定内科医かつ指導医）；専門医研修プログラム準備委員会から 2016 年度中に移行）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2014 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的主催（2017 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2014 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：開放病床症例検討会、救急事例検討会、循環器研究会、富山市呼吸器疾患研究会、消化器疾患懇話会、富山肝臓セミナー、ほか；2014 年度実績 25 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2016 年度は 9 月開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・地域密着型病院での専門研修では、電話や週 1 回の富山市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。 |
| <p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 11 体、2013 年度 14 体）を行っています。 |
| <p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2014 年度実績 25 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）をしています。 |
| <p>指導責任者</p> | <p>樋上義伸</p> |

| | |
|-----------------|---|
| | <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>富山市立富山市民病院は地域に密着した急性期・高度急性期医療を担う総合中核病院であり、特に救急診療・がん診療に力を入れています。内科のすべての領域の症例が経験できますが、特に救急診療は充実していると自負しております。また、がん診療においては、2016年に富山県で初めての最新のIMRT専用放射線治療装置が導入されますし、県内に2つしかない「緩和ケア病棟」20床を持ち、全国的にも評価の高い緩和医療を提供しています。各専門領域の指導医が「質の高い医療」をキーワードとして診療にあたっており、充実した専門研修が受けられることをお約束いたします。</p> |
| 指導医数 (常勤医) | 日本内科学会指導医 15名、日本内科学会総合内科専門医 11名 日本消化器病学会消化器専門医 4名、日本肝臓学会肝臓専門医 4名、 日本循環器学会循環器専門医 4名、日本腎臓学会腎臓専門医 2名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名、日本糖尿病学会専門医 2名、 日本内分泌学会専門医 2名、日本アレルギー学会専門医(内科) 1名、 日本神経学会神経内科専門医 1名、ほか |
| 外来・入院患者数 | 内科外来患者 71,160名(1ヶ月平均 5,930名) 内科入院患者 4,446名(1ヶ月平均 371名) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設 (内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院 日本腎臓学会研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 内分泌代謝科認定教育施設 など |

2) 専門研修連携施設

1. 金沢大学附属病院

| | |
|--------------------------------------|--|
| 認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書館と自習室、インターネット環境があります。 ・手技の練習ができるようシミュレーションセンターを設置しています。 ・心と体の健康に対処する保健管理センターがあり、カウンセラー(臨床心理士)と相談することもできます。 ・ハラスメント防止、公益通報、本学職員又は関係者からの苦情相談等に対処する総合相談室(角間キャンパス)があります。 ・病院敷地内につくしんぼ保育園、院内に夜間・日曜保育室「きらきらぼし」及び病児保育室「たんぼぼルーム」があり、利用可能です。 |
| 認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 79 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2014 年度実績 医療倫理 14 回、医療安全 9 回、感染対策 8 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2014 年度実績 41 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境 | 日本内科学会総会で多数の演題(第 113 回総会では 4 演題)あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上の発表をしています。 |
| 指導責任者 | 古庄 浩司 【内科専攻医へのメッセージ】 豊富な疾患群・症例、また先進的な医療を経験できることに加え、当院に数多く所属する経験・知識豊かな指導医による適切な指導、質の高いカンファレンスや活発な学術活動を通じて、専攻医の先生方が医師としてのプロフェッショナルリズムとリサーチマインドの素養をもち、全人的な内科医療を実践していく能力を習得できます。一緒に頑張っていきましょう。 |
| 指導医数 (常勤医) | 日本内科学会指導医 79 名、日本内科学会総合内科専門医 37 名 日本消化器病学会専門医 19 名、日本肝臓学会専門医 16 名、日本循環器学会専門医 19 名、日本内分泌学会専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 6 名、日本腎臓学会専門医 10 名、日本呼吸器学会専門医 9 名、日本血液学会専門医 9 名、日本神経学会専門医 6 名、日本アレルギー学会専門医 4 名、日本リウマチ学会専門医 11 名、 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者実数 46,293(1ヶ月平均:3,858) 入院患者実数 13,945(1ヶ月平均:1,162) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を含めて、研修手帳(疾患群項目表)にある 9 領域、39 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に循環器および呼吸器領域においては、より高度な専門技術も習得することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携などを経験できます。 |
| 学会認定施設 (内科系) | 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 |

| | |
|--|---|
| | <p> 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設 日本動脈硬化学会認定専門医認定教育施設 日本透析医学会認定施設 日本アフェレンス学会認定施設 </p> |
|--|---|

3) 専門研修特別連携施設

1. 富山通信病院

| | |
|--------------------------------------|---|
| 認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤・非常勤嘱託医師として勤務環境が保障されています。 |
| 認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医は4名在籍しています。 ・基幹施設の内科専門研修プログラム管理委員会と当院に設置されている研修委員会との連携を図ります。 |
| 認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境 | |
| 認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境 | ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、必要時に開催しています。 |
| 指導責任者 | 老子 善康 【内科専攻医へのメッセージ】 富山通信病院は地域に密着した亜急性期病院であり、特にながん診療・心血管インターベンションに力を入れています。急性期を過ぎた様々の症例が経験できますが、安心のある在宅療養や施設療養に向けて橋渡し役を担い、地域に根ざした病診連携、病院連携を行っており包括的かつ全人的なチームワーク医療を経験できます。 |
| 指導医数 (常勤医) | 日本内科学会総合内科専門医 4名、日本消化器内視鏡学会指導医 2名 日本消化器病学会消化器専門医 2名、日本循環器学会循環器専門医 3名、日本腎臓学会腎臓専門医・指導医 1名、 |
| 外来・入院患者数 (年間) | 内科外来患者 3,524名 (1ヶ月平均 862名) 内科入院患者 425名 (1ヶ月平均 68名) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある12領域、36疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら、経験することができます。特に消化器・循環器においては、より高度な専門技術も習得することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携を経験できます。 |
| 学会認定施設 (内科系) | 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本高血圧学会専門医認定施設 |

富山市民病院内科専攻医研修プログラム管理委員会

(平成 29 年 2 月現在)

富山市民病院

樋上 義伸 (プログラム統括責任者, 消化器分野責任者)
清川 裕明 (プログラム管理者, 研修委員会委員長, 循環器分野責任者)
林 茂 (神経内科分野責任者)
大田 聡 (腎臓内科・膠原病分野責任者)
石浦 嘉久 (呼吸器・アレルギー分野責任者)
清水 暁子 (内分泌・代謝分野責任者)
寺崎 靖 (血液内科・感染分野責任者)
打越 学 (救急分野責任者)
石田 陽一 (病院長)
飯田 泰弘 (事務局代表, 臨床研修センター事務担当)

連携施設担当委員

金沢大学附属病院 古荘 浩司 (金沢大学附属病院, 准教授)

特別連携施設担当委員

富山逋信病院 老子 善康 (富山逋信病院, 内科主任医長)
おぎの内科医院 荻野 英朗 (おぎの内科医院, 院長)

オブザーバー

内科専攻医代表 舟坂 雅大

富山市民病院内科専攻医研修プログラム

指導医一覧

(平成 29 年 2 月現在)

| | |
|------------------|----------|
| 樋上義伸 (肝・消化器) | 1・3・4 |
| 石田陽一 (腎) | 1・2・7 |
| 清川裕明 (循環器) | 1・2・5 |
| 寺崎敏郎 (循環器) | 1・2・5 |
| 林 茂 (神経) | 1・2・11 |
| 大田 聡 (腎・膠原病) | 1・2・7 |
| 石浦嘉久 (呼吸器・アレルギー) | 1・2・9・12 |
| 寺崎 靖 (血液・感染) | 1・10 |
| 清水暁子 (内分泌・代謝) | 1・2・6・8 |
| 水野秀城 (消化器) | 1・2・3・4 |
| 蓑内慶次 (消化器) | 1・2・3・4 |
| 打越 学 (循環器・救急) | 1・2・5 |
| 家城恭彦 (内分泌・代謝) | 1・2・6・8 |
| 上山本伸治 (消化器) | 1・3・4 |
| 芝 靖貴 (呼吸器) | 1・9 |

認定医・専門医資格

1：認定内科医 2：総合内科専門医 3：消化器病学会 4：肝臓学会
5：循環器学会 6：内分泌地学会 7：腎臓学会 8：糖尿病学会
9：呼吸器学会 10：血液学会 11：神経学会 12：アレルギー学会

別表1 各年次到達目標

| | 内容 | 専攻医3年修了時 | 専攻医3年修了時 | 専攻医2年修了時 | 専攻医1年修了時 | ※5 病歴要約提出数 |
|--------|------------------------|------------------------|-------------------|----------|------------------------|------------|
| | | カリキュラムに示す疾患群 | 修了要件 | 経験目標 | 経験目標 | |
| 分野 | 総合内科Ⅰ(一般) | 1 | 1※2 | 1 | | 2 |
| | 総合内科Ⅱ(高齢者) | 1 | 1※2 | 1 | | |
| | 総合内科Ⅲ(腫瘍) | 1 | 1※2 | 1 | | |
| | 消化器 | 9 | 5以上※1※2 | 5以上※1 | | 3※1 |
| | 循環器 | 10 | 5以上※2 | 5以上 | | 3 |
| | 内分泌 | 4 | 2以上※2 | 2以上 | | 3※4 |
| | 代謝 | 5 | 3以上※2 | 3以上 | | |
| | 腎臓 | 7 | 4以上※2 | 4以上 | | 2 |
| | 呼吸器 | 8 | 4以上※2 | 4以上 | | 3 |
| | 血液 | 3 | 2以上※2 | 2以上 | | 2 |
| | 神経 | 9 | 5以上※2 | 5以上 | | 2 |
| | アレルギー | 2 | 1以上※2 | 1以上 | | 1 |
| | 膠原病 | 2 | 1以上※2 | 1以上 | | 1 |
| | 感染症 | 4 | 2以上※2 | 2以上 | | 2 |
| | 救急 | 4 | 4※2 | 4 | | 2 |
| 外科紹介症例 | | | | | 2 | |
| 剖検症例 | | | | | 1 | |
| 合計※5 | 70疾患群 | 56疾患群 (任意選択含む) | 45疾患群 (任意選択含む) | 20疾患群 | 29症例 (外来は最大7)※ 3 | |
| 症例数※5 | 200以上 (外来は最大 20) | 160以上 (外来は最大 16) | 120以上 | 60以上 | | |

- ※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること。
- ※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする。
- ※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)
- ※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
例) 「内分泌」2 例+「代謝」1 例，「内分泌」1 例+「代謝」2 例
- ※5 初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる。

別表 2

富山市民病院内科専門研修 週間スケジュール (例)

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | 土曜日 | 日曜日 |
|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|--------|-------------------------------------|-----------------|------------------------------------|-----|
| 午前 | 内科 朝カンファレンス〈各診療科 (Subspecialty) 〉 | | | | | 担当患者の病態に応じた診療／オンコール／日当直／講習会・学会参加など | |
| | 入院患者診療 | 入院患者診療／救命救急センターオンコール | 入院患者診療 | 入院患者診療 | 入院患者診療 | | |
| 内科外来診療 (総合) | 内科外来診療〈各診療科 (Subspecialty) 〉 | | 入院患者診療 | 内科外検査〈各診療科 (Subspecialty) 〉 | | | |
| 午後 | 入院患者診療 | 内科外検査〈各診療科 (Subspecialty) 〉 | 入院患者診療 | 入院患者診療／救命救急センターオンコール | 入院患者診療 | | |
| | 内科入院患者カンファレンス〈各診療科 (Subspecialty) 〉 | 入院患者診療 | 抄読会 | 内科入院患者カンファレンス〈各診療科 (Subspecialty) 〉 | 救命救急センター／内科外来診療 | | |
| | | CPC／内科合同カンファレンス／地域参加型カンファレンスなど | 講習会など | | | | |
| 担当患者の病態に応じた診療／オンコール／当直など | | | | | | | |

- ★ 富山市民病院内科専攻医研修プログラム 4. 専門知識・専門技能の習得計画 に従い、内科専門研修を实践します。
- ・ 上記はあくまでも例：概略です。
 - ・ 内科および各診療科 (Subspecialty) のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
 - ・ 入院患者診療には、内科と各診療科 (Subspecialty) などの入院患者の診療を含みます。
 - ・ 日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科 (Subspecialty) の当番として担当します。
 - ・ 地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。